

環境音楽～あなたが知らない音楽の効果～

音楽班 浅輪 有本 伊富喜 仮山 北島 駒井 酒谷 安田 山崎 横田

1. はじめに

私たち音楽班は、音楽の研究をするにあたって、音楽が人に与える影響はどのようなものか疑問をもった。音楽は普段、私たちの身のまわりに溢れているが意識することは少ない。そこで、日常生活で私たちがよく触れる、「環境音楽」について調べた。環境音楽とは、日常的な環境の一部として、自然な聴取体験を促す音や音楽、環境音に近い音楽である。つまり、目立った音が少なく、同じコードで続けて演奏され、聞き流すことができるものだ。また環境音楽は、作曲家や演奏家の意図を主張したり、聴くことを強制したりせず、耳にした人の気持ちを開放的にすることを目的としている。環境音楽は、楽器のみで構成されている「インストゥルメンタル」が多い。たとえば、CM、スーパーマーケットやカフェなどで流れている BGM などがある。環境音楽には、場が和んだり、心が落ち着いたり、空間の緊張を取り除いたりする効果があり、ヒーリングミュージックと呼ばれている。

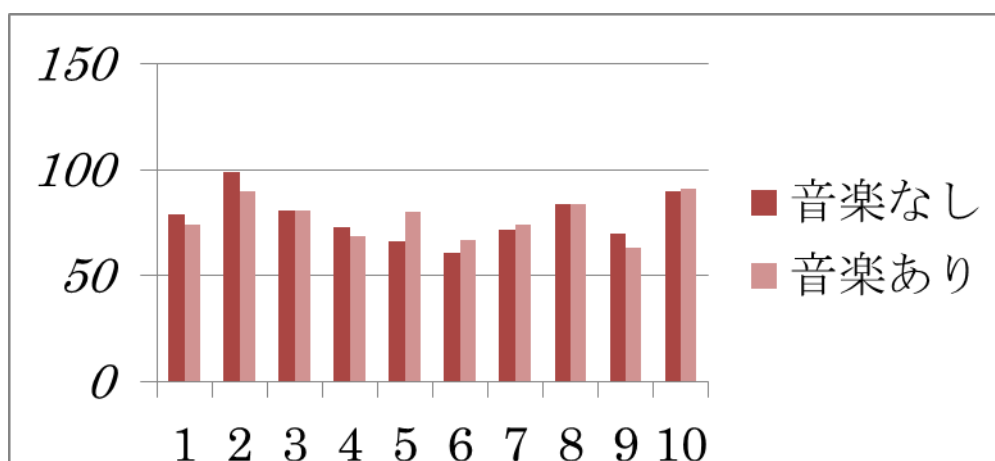
2. 調査・実験

- (1) 環境音楽の研究をされている久保田テツ氏に来校していただき、講義をしていただいた。久保田テツ氏は大阪大学コミュニケーションデザインセンター特任准教授をされていて、実際に校外に出て音楽が与える効果を調べる「フィールドワーク演習」や、自分が好きな音楽を言葉で表現しプレゼンテーションを行う「ムジカバトル」など、音楽を通して様々な学科の生徒に、勉強だけでなく社会でのコミュニケーションの授業をしていらっしゃる。
- (2) 久保田テツ氏の講義で学んだことをもとに環境音楽を作曲した。3グループに分かれてそれぞれ作曲をした。それを中間発表会で高津の生徒、教員に聴いてもらい、その感想についてアンケートを実施した。1曲目はプラスの意見として安心する、病院で流れていそう、マイナスの意見として単調すぎてイライラする、飽きるなどがあった。2曲目はプラスの意見として落ち着いた感じがする、安心する、マイナスの意見として音が暗い、不安に感じたなどがあった。3曲目はプラスの意見としてお祭りのような雰囲気を感じる、自然の中にいるような感じ、マイナスの意見として聞き流しにくい、不快だったなどがあった。発表中に環境音楽を流すことで聴いている人にリラックスしてもらうのが目的だったが、中間発表会では逆に集中できないなどの意見があったため、そのアンケート結果をふまえてよりリラックスで

きる環境音楽をもう一度作成した。新しく環境音楽を作る際に意識したことは、一般に水が出す音は人に不快感を与えないと言われているため、蛇口から流れる水の音を通奏音として用いた。電子ピアノも用いたが、雫の音をイメージして音を加工した。また、メロディベルの音の響きが雫のしたたる残響音に似ていたため定期的に音を鳴らしそれを表現した。さらに、生のピアノの高音域を用いて曲の雰囲気をも明るくした。

- (3) 環境音楽を流して、流していないときとの脈拍の変化を計測した。まず無音の状態で脈拍を測定したのち、音楽を流した状態で再度測定し、脈拍の変化を調べた。音楽は、高木正勝氏の「そらつつみ」と idomiz.氏の「lightfall」の2曲を使用した。その結果、脈拍の変化には規則性はなく、当初予想していた「環境音楽を流しているほうが脈拍数は減少し、安定する。」という予想に反して、上昇した人もいた。

<環境音楽を流す前後の脈拍の変化>



- (4) 学校周辺の店舗や医療機関を訪れ、実際に使われている環境音楽について、音量、テンポ、使われている楽器、歌詞の有無を調査した。予想していたよりは統一性やこだわりがなく、流行している J-POP を流しているところが多かった。医療機関では、病院を訪れた人に不安感や退屈さを与えないため、医者と患者との会話や医療機器の動作音を打ち消すために環境音楽を用いていた。飲食店では、季節に合った有名な音楽や店舗の雰囲気に合った曲が流されていた。コンビニエンスストアは店舗によって音楽が流されていたり流されていなかったりした。

3. まとめ

環境音楽は聴いている人の心を落ち着かせ、退屈させないという効果があり、人によって印象の受け方がさまざまであることがわかった。さらに、環境音楽を含む音楽は目的に合った印象を与えることができることがわかった。しかし、私たちが予想していたより、街中で流されている音楽には明確な目的があまりなかった。

4. 今後の課題

- (1) 脈拍と連動して、血圧の測定も行いたい。
- (2) 可能であれば脳波等、環境音楽の脳への効果を調べたい。
- (3) 測定時に流す音楽のテンポや使用されている楽器などを変更したときに、脈拍・血圧の変化に違いがあるかを調べる。
- (4) 作曲した環境音楽を発表時のみではなく日常の中で流した時の印象を調べたい。

5. 参考文献並びに参考 Web ページ

- ・ YouTube
- ・ 三省堂 大辞林

